

## リオデジャネイロの記憶

校長 桐野 和之

リオデジャネイロオリンピックが閉幕しました。いよいよ4年後の2020年は、私達の住む街、東京でオリンピックが開催されます。

さて、この度のオリンピックでの日本人選手の活躍は、過去最高となるメダル獲得数41個からもわかります。

その中でも女子レスリング58kg級の伊調馨選手の五輪4連覇という記録は凄い。女子の個人種目では世界の誰もが立ったことのない頂きで、そこに初めて日本人のアスリートが立ったのです。オリンピックで金メダルを1つ獲得するだけでも偉大なことです。それをアテネ、北京、ロンドン、リオデジャネイロと4つの大会で連続して金メダルを獲得するとは、形容のしようがないくらいです。

しかも皆さん、伊調選手の勝利の瞬間を知っていますか。試合のラスト4秒まで負けていたのです。最後の最後まで、決して諦めることなく戦い続けた勝利の結果だったのです。

伊調馨選手にはかつて「姉妹で金メダル」を目ざした姉、千春さんがいます。残念ながら姉はオリンピックの二大会（アテネ、北京）に出場し、2つの銀メダルを獲得するにとどまりました。姉妹で金メダル獲得を目ざしたのですが残念ながら夢は叶いませんでした。銀メダルでも凄いのですが……。そして、現役引退後、地元・青森県の高校でレスリング部の監督として後進を指導しています。今回のリオデジャネイロオリンピックで姉は観客席から馨選手に声援を送り続けました。

実は今回の快挙を成し遂げた馨選手も、オリンピック前の今年1月、国際大会の決勝で敗れているのです。しかも、その負けは13年ぶりの敗戦でした。

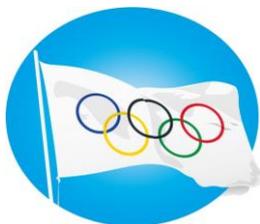
千春さんはその時の馨さんの気持ちが知りたくてLINEで連絡しました。

すると「何もかもダメ。悩みながらマットに上がったらダメだね。」妹馨さんからの返信には反省の言葉が並んでいました。長く頂点に立ち続ける妹が国際大会でいつもと違う色のメダルを獲得してどう感じたのだろうか聞いてみると、「金メダルを取っても、内容がダメだったら、ダメだし」とあった。

さらに「不思議だけど、負けたけど凄く心が落ち着いている。心が満ちている」とも書かれていた。その頃の馨選手は自らに課題を出して男子と練習を続け、休むことはありませんでした。姉の千春さんは「馨はずっと走ってきた。走っている最中は深呼吸できないけど、負けて止まったから良かったんじゃない」と返信した。

大会から帰国した馨は翌日からまた練習を始めた。「一番難しいことをやろうとするのが馨」と姉は言います。

伊調選手は常に強い意志で自分を追い込みます。男子との練習もそうですし、さらにオリンピックで自分の試合直前でも日本人が出ていない男子の試合を観戦し、「すごい！どうやったらこんな技ができるの？」と、レスリングを楽しむこと、極めることを忘れていませんでした。このような飽くなき向上心が4連覇を達成させたのだと思います。でも、伊調選手の自己採点は厳しいです。自分が金メダルを取っても、試合後は30点と自分を評価しました。なかなかまねのできないことかもしれませんが、常に向上心を持ち続けることは素晴らしいことだと思いませんか。



# 岩井臨海学校を振り返り

第1学年主任

7月30日～8月2日の(3泊4日)千葉県岩井海岸での岩井臨海学校は、前の週までは、気温が低く天候が心配されていましたが、波穏やかな中で、無事終わることができました。



140名が、臨海学校での遠泳、泳ぎ切れるのかという不安や緊張で一杯になり、さらに2日目と3日目の午後が悪天候による遊泳禁止のために、水泳訓練が短くなったのにも関わらず、事前の学校プールでの水泳訓練や、現地での計画的な水泳指導を通して、全ての生徒が遠泳を完泳でき、全員の生徒が各自の目的を達成し、遠泳時の隊列の美しさは指導員の先生にもほめられました。そして、泳ぎ切った後は今までに味わったことのないような達成感で満ち溢れていました。



しかし、今回の臨海学校を通して反省点も再確認できました。

それは、係の仕事はとても一生懸命やり遂げられましたが、集団行動時で、私語を慎み、先生の話を中心して聴いて行動する態度と、周りの状況に応じた行動が不完全でした。そして、同じ注意を何度も繰り返されたことです。

その場の雰囲気流されることなく、各自が自覚をもった行動と、気が付かない人には、注意し合っていくことを身につけていって欲しいと思います。



夏休みが終わり、二学期が始まりましたが、これからの学校生活の中で、遠泳をやり遂げたことは生かし、反省点を改善していって欲しいと思います。

## 生徒の感想 (しおりより抜粋)

男子生徒



友達と一緒に助け合って最後まで泳ぎました。最初は足がつくところで泳いでいたので緊張感が薄れていました。けれど、最後の遠泳の時は足がつかない深いところまで泳いでいて、緊張感が増し、本気で泳ぐことができ、学校でもできなかった顔上げ平泳ぎができるようになった。

男子生徒

泳ぎが嫌いでしたが友達と夏休み練習して泳げるようになりました。そのおかげで僕は臨海学校を泳ぎきることができました。来年は臨海学校はないけれど、いっぱい友達と練習したいと思いました。

男子生徒

水泳実習は三日目の遠泳で、学校のプールでの練習や一日目、二日目の海での練習など、成果を十分に出せたと思います。最初は少し緊張していたけど半分くらいの所で慣れて完泳できました。この体験はすごい思い出になりました。

女子生徒



大遠泳、成功できてとてもうれしかったです。今回の水泳訓練で学んだことはたくさんあります。「海での泳ぎ方」「指示の大切さ」「チームワーク」。もっともっとあります。その学んだこと一つ一つを忘れずに私の人生に活かしたらいいなと思いました。「友達と信じ合い泳ぎきれたこと」それは私の大切な思い出になりました。本当にありがとうございました。



女子生徒

クラゲに刺されながらも真面目に取り組んだし、取り組めた。パンとアクエリアスが美味しく感じた(笑)ってくらい頑張ったと思う。最後の大遠泳で信じられない程長い列で一番前の真ん中として、完泳したときはうれしかった。全員無事なのも一層うれしく感じられた。個人的にはあっという間に終わってしまったと思った。

女子生徒

練習ではみんなと協力して泳ぐことができました。バディーの人達と声をかけ合ったり励ましたりと協力して泳ぐことができました。遠泳では全員が泳ぎきることができて本当に良かったです。声を出して泳いだり、バディーの人とは励まし合ったりと、いろいろなことができました。本当にこの経験はいい経験だったし、二度とできないことだと思うので、できて良かったです。

## 海外派遣で学んだこと

3年 男子生徒

僕は、今回のオーストラリアへの海外派遣では本当によい経験ができ、多くのことを学びました。オーストラリアに行く前は、英語でうまくコミュニケーションはとることができるだろうか、ホームステイでの暮らしは大丈夫だろうか、せっかく海外派遣に行かせてもらっているのに無意義なものになってしまったらどうしようか、など、不安がたくさんありましたが、いざ、その場に行ってみると、オーストラリアの人たちは優しく、フレンドリーに接してくれて、不安はなくなりました。

また、単語がわからなくても身振り手振りで伝えたり、どう言えば良いのかわからなくても知っている単語をつなげて伝えたりすれば楽しく会話することが出来、さすがに英語は上達しなかったのですが、異文化との交流をして、会話をする事への不安もなくなったので、普段は得られない、コミュニケーション能力を得られた気がします。なのでこれからは、日本でも外国人に道を尋ねられた時などに、ためらいなく、気軽に会話をする事ができそうです。

また、ホストファミリーにはバーベキューをしてもらったり、動物園に連れて行ってもらいました。バーベキューで食べたオージービーフはとても美味しく動物園ではコアラをだけたりもしました。僕は動物が好きで、オーストラリアに行ったらコアラやカンガルーを見たいと思っていたので、動物園に行かせていただいて、とてもうれしかったです。

イブスイッチ校という学校にも行きましたが、そこでは現地の生徒達と一緒に授業を受けたり、遊んだりして、楽しかったです。最終日には学校で共に生活したイブスイッチ校に通っているバディとお別れしましたが、その時点でバディは泣いてくれました。こんな体験は始めてだったので、とても感動しました。この経験は忘れられないものとなりました。本当に充実した海外派遣になりました。これからもこの経験を国際交流や仕事などにも生かしていきたいと思えます。



今回このような貴重な体験をさせていただき、とても光栄でした。

オーストラリアでは、日本では学ぶことのできない多くのことを学ぶことができました。特に私にとって印象的だったのは、日常生活についてです。私がホームステイをさせていただいた家庭では、掃除や洗濯といった家事の分担が、私の家よりも、たくさん子どもたちに割り振られていました。しかも、子どもたちが、「お手伝い」ではなく、自分の「仕事」として行っている様子に驚きました。

学校では、たくさんの人と会う機会があり友達もできました。廊下を歩いていると「Hello.」や「コンニチハ」と声をかけてくださる方がたくさんいて、とても嬉しかったことを覚えています。ただ、オーストラリアに行くまでは、オーストラリアの人たちに対して、みんなフレンドリーでオープンな人たちといった印象をもっていました。もちろん、オーストラリアの人の中にも、フレンドリーな人もいればシャイな人もいる、ここは日本と変わりはないのだと感じました。

また、オーストラリアの学校に通ってみて分かったことは、日本の学校に比べ、規則が少ないということです。そのため、服装や行動面は、日本人の私たちからすると、かなり自由に思えました。例えば、私のバディやバディのお姉さんは毎朝メイクをし、お菓子やケイタイを持って学校に登校していましたが、それも禁止ではありませんでした。こう言うと、きつとうらやましいと感じる人も多と思います。実際、私もとてもうらやましかったのですが、その分、自己責任になる部分も多いのだと思います。

校内はとても広く、学園中の3倍以上あったと思います。そして、道が迷路のようにたくさんあるので迷子になりそうでした。

私たちの行った学校には、カフェテリアのような昼食を食べるための場所はなく、多くの人たちは、天気が良ければ外に出て、それぞれの好きな場所に座って、好きな人と一緒に食べていました。

このような違いを知ることで日本の良いところもたくさん発見することができたので、とてもよい機会となりました。

最後に今回オーストラリアへ行くことができ、一番よかったと思うこと、それは友達ができ、できたことです。違う国の人と友達になれるなんて、ほぼ奇跡に近いのではないかと思います。これからも連絡を取り合い、また会える日をとても楽しみにしています。この海外派遣に関わっているすべての人に感謝しています。本当にありがとうございました。

Thank you so much for everything!! I'll never forget these precious memories!



## 道徳授業地区公開講座 9/10

保護者の方の感想

同じテーマで各クラスの道徳講座が行われているので興味深かったです。同じ題材でも先生方の切り口がほんの少し異なるだけで、それぞれがとても新鮮でした。

○年○組は活発な感じて『3年B組金八先生』の3-Bのようなクラスだなと感じました。エネルギーの高い学年のようなので大きな成長を楽しみにしています。どうぞよろしく願い申し上げます。

